い礼状が参りました。それによると南君は昭和四年上京して日本冶金に入社し、昭和三十一年に関係の大洋商事(社長佳吉さん)に転じ、同三十六年退社して、東西写真用品㈱の関係し、七十過ぎまで働いて自適生活に入ったとのことです。

その間、仕事のかたわら俳句の道に入り、室積徂春先生主宰の俳誌『ゆく春』の同人、南三涛として作句に精進しつゞけて来たとのことです。又、閑さえあれば和歌に堪能な菊代奥さんと、連れ立って各地名所旧蹟（外国にも）を訪ねるのが楽しみで、今回も富山へ行く準備中だったそうです。

お子様は、三女一男の四人でそれぞれ立派に家庭を築いておられ、末の長男融(とおる)氏は日商岩井(海外を経て現在東京)にご在勤の由です。先頃、この四人のお子さんが、協力して南君の作句四百句を選んで、南三涛句集「北多摩」を出版し、これを南君に捧げたとのことで、一冊送って来られました。

それを見ると、大体年度順になっており、この変転きわまりない半世紀の一年一年を、苦難とたゝかいながらも、充実した生活を積み重ねて来たことが察せられ、そして良い奥さんと、親思いのお子さんお孫さん方に囲まれて、平和な、この上ない生涯を送ってきたことがうかゞわれ、感銘を深くした次第であります。

よって、これは私一人に止めおくべきではないと存じ、編集の方とも相談の上、こゝに南君の作句の一部を掲載して、知友の皆さん方とともに南多魯男君を偲び、ご冥福を祈りたいと思うものでございます

（昭和六十二年二月一日）合掌

南多魯男（三涛）君俳句の一部

（カッコ内は昭和年度）

鵜の篝月を崩して更けにけり(9)
つばくらの巣に汐強き南風かな（13）
母の還暦祝に
水洟もめでたし赤のちゃんちゃんこ(15)
美しくしぐれぬし人の傘斜め(31)
但春先生逝去せらる
奉る句もなく涙凍てる夜ぞ（31）
長男六年振りバンコックより帰る
老夫婦と息子夫婦と去年今年(50)
金婚式に
重ね合う掌のあたゝかき睦月かな（52）
長男クアラルンプールより電話
椰子渡る風聴かまほし初電話(53)
奈良にて
天平の甍葉桜へ反りたゞし（55）
（手帖の終りに記されていた句）
月光る白き野の道一すじに（61）

強者達の夢の跡
―一九八六年のロンドン―

日商岩井㈱広報室課長　秋元貞勝

これから訪れるロンドンに、果して60年も前の鈴木商店の足跡が残っているのだろうか？撮映隊を送り込む私達の計画は、結局徒労に終るのではなかろうか？

ニューヨークから、大西洋を飛ぶ夜間飛行の機中で、私は何度も、この不安に悩まされていた。

新しい会社紹介映画を、大至急制作せよ、との社命を受けた時、少くとも映画の導入部―プロローグ―に関する私の胆は決っていた。鈴木商店の活躍を描くこと、これであった。問題は文章によるのではなく、カメラを通して描かねばならない事だった。60年の歳月を経た今、一体何が撮映可能なのだろう？

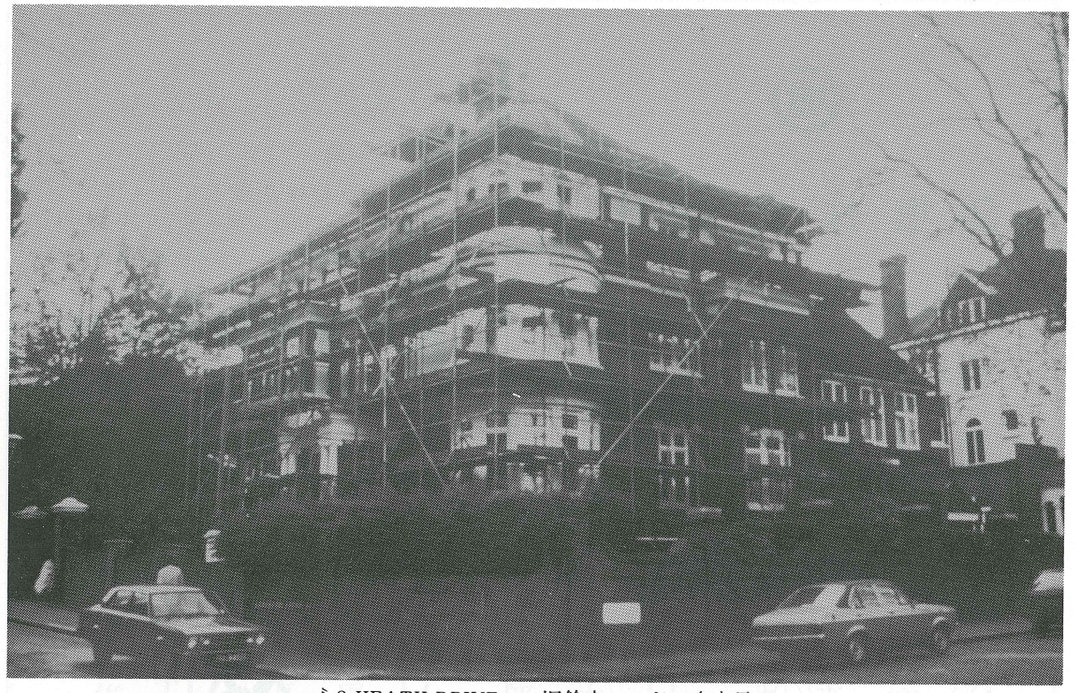
私達は、「社史」城山三郎の「鼠」高畑氏の「私の履歴書」などを精読することから作業を始めたが、それはまるで霧の中を手探りで歩いているようなものだった。私達の仕事の意義をよく理解された、太陽鉱工の谷口氏や、落合大阪秘書室長の応援が、私達にはとても励しとなった。落合さんには、幾度か高畑家に足を運んで頂いた。

その頃、契約していたロンドンの調査会社より、最初の報告書が届き、私達は、次第に確かな手掛りを感ずるようになっていった。

❋

最初に訪れたバルティク海運取引所の執事から、高畑氏署名の会員出願書(それは鈴木商店のレターヘッドで、一九一九年十二月十九日の日付がタイプ打ちされている。)の写しを手渡された時、胸にわだかまっていた不安は、一気に消失した。第一次世界大戦の頃の歴史の匂いが私を取り巻き、一瞬、ホールの騒音が消えたようだった。

市の北郊 PHAMPSTEAD の一角に、そびえ立つ旧高畑私邸を訪



〝8 HEATH DRIVE〟―旧鈴木ロンドン支店長
(1913～1926)
高畑誠一氏邸

れた時には、激しいにわか雨が丁度あがり、深い緑が目にしみた。

〝8 HEATH DRIVE〟――

真ちゅうの板に刻まれた番地は、まぎれもなく私達が追い求めていたlocation(ロケーション)であり、いくらか老朽した建物の偉容、たたずまいは、高畑夫人が記憶されていた通りのように思えた。

アディントン GOLF クラブや、旧鈴木ロンドン支店があった 29 MINCING LANE も、戦災を受けながらも往時のおもかげを残していた。「やはりここは英国なんですね」と平素は、無表情のカメラマンがフィルムを回しながらつぶやいた。

❋

私達の作品「WORKING TOGETHER」は昨年9月に完成、たつみ会の皆さんも一部の方は既にご覧になったと聞いています。

制作に携り、ロンドンに鈴木の夢の跡を追い求めるという役得に浴した一人として、一筆したためさせて頂きました。皆様の一層のご健勝をお祈りします。

◆**原稿募集**

内容　随想　短歌　俳句　詩
写真　鈴木往時の思い出
などを

必ず原稿用紙に縦書で
四百字詰五枚程度

締切　昭和六十二年十月末日

送先　神戸市中央区京町七二
太陽鉱工㈱内
『たつみ』編集部宛

〈あとがき〉

経済界もそれぞれの努力により、やや好調となり、景気回復の微光あり、と言う専門家も出て来たようです。

平穏と向上のバランス、人生考えれば迷妄、難しくもなります。

お家様の五〇回忌、もし今の時代にいらっしゃいましたら何と申されるでしょう！

ときどき御訃報に接し、寂しい限りです。あのお元気で若く見えた、斎藤支部長の御急逝は、大変ショックで、今だに信じられません。ご冥福をお祈り申し上げます。

毎日毎日暑い日が続きますが、もう少し幸抱すれば、食欲の秋がやってきます。

お元気で――。

（松下　重男）